

平成25年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 一般研究

研究代表者： 松永 光平（慶應義塾大学政策・メディア研究科・特任講師）

研究分担者： 佐藤 廉也（九州大学比較社会文化研究科・准教授）、村松 弘一（学習院大学学長付国際研究交流オフィス・教授）

研究題目（和文）：

黄土高原の農村レベルにおける気候変動適応可能な生業転換モデルの研究

研究概要（和文）：

黄土高原の農村では1999年以降、退耕還林政策の実施による緑化面積の拡大に伴い、これまで行われてきた自給自足的な農業を放棄して、商業や、石油、天然ガス開発など鉱業へ生業転換する動きが出ている。緑化による可耕作地の減少と生業転換とが重なり、今後、農業に投入できる水資源と土地資源とが不足する可能性が高まっている。また、気候変動に伴う干ばつや洪水の頻度の増加が予測されているが、被害規模によっては、食料確保のため、緑地が耕地に戻される可能性もある。そこで、本研究では突発的な降水量の減少に適応可能な水資源と土地資源との利用方法を探索し、農業と環境保全・経済発展・エネルギー開発とを両立させるモデルの構築を目指した。

具体的な方法としては、鳥取大学乾燥地研究センターと中国科学院水土保持研究所との共同研究のフィールドのひとつであった陝西省安塞県を主要研究対象地として設定した。また、自然条件や社会条件の違いが生業転換に及ぼす影響を調べるため、研究代表者の研究対象地である陝西省洛川県も考察の対象とした。さらに、以下の二つの手順で研究を進めた。第一に、聞き取り調査、水文データの解析、社会経済統計の解析、衛星画像解析などを組み合わせて、人々の生業転換の特徴と地域の水資源・土地資源に与えた影響を明らかにした。第二に、黄土高原における気候変動適応を考慮した生業転換のシナリオを作成した。